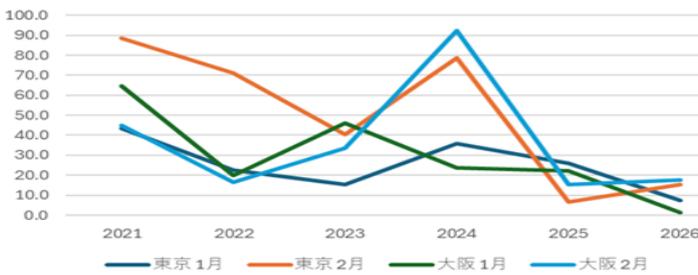


今年の降水量

今年に入って東京都も大阪府も降水量がとても少ないように感じたので、調べてみました。今年の1月は東京で7.5mm、大阪では1.5mmの雨しか降りませんでした。例年1月&2月は降水量は少ない方ですが、今年は特に少ないような気がします。節水に心がけないと。

東京と大阪の1月の降水量



ヨシナカ新聞

3月号

発行所

株式会社ヨシナカ

TEL: 072-977-8861

FAX: 072-976-0634

オーケストラのチューニング

オーケストラのコンサートでのチューニング(音程合わせ)は、舞台上で先ずオーボエがA(ラ)の音を吹いて、それを基準にして他の楽器が合わせます。何故でしょうか。

1. 何故、舞台上でチューニングするのか？

楽器、特に木製楽器は温度や湿度の変化に敏感で、舞台に出た瞬間に音程が変化し得るため、客席や舞台の環境に合わせて直前の調整が必要になります。

2. なぜオーボエが基準音？

弦楽器は湿度影響が大きい。金管楽器は吹奏圧で音程が変わりやすく、長音維持が大変。木管楽器ではファゴットは音が低すぎ、フルートは音が拡散し輪郭が曖昧、クラリネットは歴史的に登場が遅く(モーツァルトの時代以降に登場)、結局、ビブラートが少なく音程が安定しているオーボエが消去法で選ばれました。ただし、ピアノを使用する場合はピアノが基準音となります。ピアノをオーボエの音に合わせると88鍵の調律に約2時間を要するからです。

3. なぜA(ラ)で合わせるのか？

弦楽器は開放弦に“A(ラ)”が含まれるので、弦を押さえずに自然に発音できるためです。また、物理的理由としてはA=440Hzは倍音関係が明瞭(1オクターブ上=880Hz、下=220Hz)な為、1939年のロンドン会議で標準として決められました。それまでは415Hzや430Hzが一般的だったので、440Hzになると喉が壊れてしまうとオペラ歌手たちから抗議が殺到しましたが、彼らの願いが受け止められることはありませんでした。

お米の話

先日、ラジオで“お米ライター”の柏木千穂さんという方がお米について、とても興味深い話をされていたので、紹介させていただきます。

1. 徳川家の功績、計り知れず

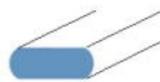
江戸時代、徳川家による全国的な治水と水田開発がされました。元は東京湾へ注いでいた流路を、銚子から太平洋に流れるように、家康・秀忠・家光の三代にわたり実施されました。それまで関東平野は湿地や氾濫が頻繁で稲作に不向きでしたが、稲作が可能になりました。この成功が各地の大名にも波及、全国で治水工事が行われ、米の生産量の増加が進みました。

2. 救世主・コシヒカリ

現在、新潟は「米どころ」のイメージが強いですが、昔は寒冷や冷害の影響で「鳥またぎ(鳥も避ける)」と揶揄されるほど、米が美味しくありませんでした。

コシヒカリは1950年代後半に福井県で誕生しました。当初は病害や倒伏に弱く、低評価でしたが、新潟県と千葉県が採用、「日本一うまい米作り運動」を展開、高度経済成長の「美味しさ指向」と合致、昭和30年代後半以降、新潟県は“米どころ”として認識されるようになりました。

また、コシヒカリは品種改良の親として、現在の主要品種「ひとめぼれ」、「ヒノヒカリ」「あきたこまち」等がコシヒカリ(面が長方形)の対面する二つの面にRが付いている形状です。



半径R値は自然Rの場合は、“半径R≧面の高さX1/2”となります。

“半径R=面の高さX1/2”を製造する場合は専用の金型が必要

シヒカリ一族として誕生しました。

3. お米の旬

お米は新米の季節が旬と思われがちですが、実際に味が乗ってくるのは収穫から3~4ヶ月くらい経過した年明けくらいなのだそうです。柏木さん自身、会社を辞めて米を作っていた時代に経験されたそうです。料理人の方に尋ねてもそう答える方がとても多いそうです。勿論これは精米後のことです。

最後になりましたが、お米を美味しく食べる条件は、①冷水で洗う→②6時間以上冷蔵(10時間でも12時間でもOK)とのこと。吸水力がUPし、とてもふっくらしたご飯になるそうです。



となります。なお、製造可能範囲は先月号記載の“平角”と同じです。

ステンレス・平線

弊社大阪工場ではステンレスの母材(主に線材コイル)から断面が角、六角、平角(長方形)、平線(ラウンドエッジ)やそれ以外の形状(異形線)を製造しています。今回は平線のご紹介です。

平線は先月号でご紹介した平角(断

厚	x	幅	公差
2	x	~32	h11・h12
3~5	x	~25	
6~7	x	~20	
8~10	x	~16	
12	x	~14	